

第 65 回日本 PTA 全国研究大会 仙台大会 報告書

富士市 PTA 連絡協議会

会長 深澤 大介

特別第 1 分科会 「いじめ」何が起きているかを知る

今年から立ち上がった富士市のいじめ対策協議会の評議員に任命されました。

第 1 回の会議で PTA としていじめ対策に何か取り組んでいるか？と問われ、市 P としてそのような対策は話し合っていないし、学校現場にいない私には「いじめ」の現状も分からないので、非常にタイムリーな分科会でした。

教育学部の大学教授 3 名、教員の OB 2 名、保護者の代表 2 名、計 7 人によるパネルディスカッションでした。

娘が不登校になってしまった原因が部活動での先輩からのいじめということが、娘の友人からの電話でわかりどうしていいかわからなくなってしまう。という寸劇で始まり、パネラーからいじめの現状が語られます。いじめは認知された件数が平成 27 年度で 224,540 件、大雑把に一校あたり 6 件のいじめがある計算になり、どここの学校でも起きているということです。

また、いじめられている子は自分がいじめられていると、親にも友人にも話したがりません。いじめられているのを認めることは本人にとって屈辱であり、他人に知られたくないという気持ちが強いそうです。

次の寸劇では困った母親が担任に相談します。担任は部活の顧問にいじめの件を伝え、顧問も生徒指導主事に伝え、学校全体の問題として調査したところ他にも部活動でのいじめの事例があったということで、すべての部活動を 1 週間停止し、先生と生徒、学校全体でいじめをなくすにはどうしたらいいか？ということに取り組んだそうです。

パネラーからは、いじめは教師が見てないところで行われる。いじめがわかったら迅速に対応する。教員は一人で何とかしようとしません。という意見が出ました。寸劇での学校は他の教員の協力、そして子どもにも起こっていることを伝え、学校全体で問題解決に当たったという対応が非常に良いとのことでした。

学校は、いじめをなくす・未然に防ぐ、ということに力を入れていることを常日頃、保護者・地域に発信し、学校の外で見かけた「おやっ」と思う子どもの行動を見かけたらすぐに学校に連絡をしてもらおう風通しの良い環境を作ることが重要になってきます。

母親は相談した担任から「娘さんは 100%教員が守ります。」という言葉にすごく安心し、この人を信頼して何でも話そうという気になったそうです。

PTA 役員として学校と保護者の連携強化の一助になればと決意を新たにできた分科会でした。